

B 型 肝 炎

☆血液、だ液、汗などでB型肝炎ウイルスに接触することで感染します。

☆急性肝炎になり自然によくなることもあれば、慢性肝炎になってしまうこともあります。なかには劇症肝炎という非常に重い症状をおこし、命にかかわることもあります。

☆年齢が小さいほど、急性肝炎の症状がはっきりしないまま感染がずっと続いている状態（キャリア）になりやすいと言われています。

☆B型肝炎ワクチンを接種することで、体のなかにB型肝炎への抵抗力（免疫）ができます。

☆このワクチンは1歳になるまでに3回接種することになっています。

☆B型肝炎ワクチンは不活化ワクチンです。

●次にあてはまるお子さんは、B型肝炎の定期接種の対象にはなりません。

垂直感染（母子感染…B型肝炎ウイルスをもっているお母さんから産まれるときに赤ちゃんが感染する）予防のために、出生直後のB型肝炎ワクチン接種や抗HBs人免疫グロブリン投与を医療保険で受けたお子さんは、B型肝炎の定期接種の対象にはなりません。

■予防接種の受け方

— いつ受けるの？ —

接種年齢 1歳未満
（標準的な接種年齢：生後2か月以上9か月未満）

— どこで？ —

福島市登録医療機関に予約してください

— 持っていくものは？ —

母子健康手帳、B型肝炎予防接種予診票、
子ども医療費受給資格者証など

— 回数と間隔は？ —

1回目

（標準的な接種年齢：生後2か月）

↓ 27日以上あける

2回目

↓
3回目 1回目から139日以上あける
（標準的な接種年齢：生後9か月未満）

■おこるかもしれない体の変化（副反応）

●B型肝炎ワクチンを接種した後、接種個所が赤くなったり、はれたり、痛みを感じたりすることがあります。

●頭痛で機嫌が悪くなったり、だるそうにしたりすることがあります。

●きわめてまれにアナフィラキシー（急激なアレルギー反応）や急性散在性脳脊髄炎（アレルギーにより脳や脊髄に炎症がおこる）などの重い症状があらわれることがあります。

○予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐに接種医に相談してください。

